

ベストクラス候補選定理由書

作成者：D班（二森正人，江口真優，香田太郎，須田康之，初田 隆，藤木裕一）

科目名称	行動障害支援論（昼間クラス）		
	（担当教員名： 井澤信三 ）		
課 程	学部・大学院（ 修士 ・専門職）	開講時期	前期・ 後期
授業形態	講義	授業規模	31人以上
インタビュー対象教員名 井澤信三 （実施日時： R1.7.22 10:40～11:40 ； 実施場所： 総合研究棟3階「小会議室」 ）			
インタビュー対象受講者名 市下 望，大江孝則，村松宏記 （実施日時： R1.7.22 10:40～11:40 ； 実施場所： 総合研究棟3階「小会議室」 ）			
<p>選定理由</p> <p>まず、6月に行われた学生・教職員FD活動交流会でベストクラスの検討を行い、評価項目の平均値が高かったことと、自由記述の記載から受講生の学びが多いと考え、ベストクラスの候補に挙げた。自由記述からわかったこととしては、議論の形態も様々で、個人ワークやグループワークなど、様々な形態で考える機会が設けられていた。また、議論の内容も、事前に学習を深めてから討論するので、主旨から外れずに深い議論ができた。そして、講義で学んだことが、学校現場に生かせると思われ、受講者が感じ、学校現場に戻った時に、研修会を開きたいと思える変容が見られた。</p> <p>その後7月に、担当教員と受講生にインタビューを実施して、上記の内容を中心に詳しく伺い、次のことが明らかになった。</p> <p>1. 活動の形態とそのねらいについて</p> <p>行動上の問題について、応用行動理論という枠組みで理解していく授業である。理論の理解確認は、紙面や映像を用いて、主に個人ワークで行われた。その後、実際に学校で行う支援をまずは個人で考え、その後にグループメンバー（現職教員とストレート院生と混合で、毎回変わる）と共有し、自分にはない多様な考えを知る。そして、どのように strategy sheet（児童・生徒の支援計画）をまとめるかを考える過程で、意見をすり合せて決めていく。次の時間に、全グループの案をコピーしたものが配られ、1, 2グループが発表して、担当教員がフィードバックを与えている。このように学ぶことで、深い議論が行われていた。</p> <p>2. 現場とリンクしていることについて（受講生のインタビューから抜粋）</p> <p>学校現場でよく起きるが解決できない事例を考える機会になった。複数で関わっていくと解決でき、倫理的にも逸脱せず、先入観を取り除いて、児童・生徒の行動を理解できた。</p> <p>また、特別支援が必要な児童だけの為だけでなく、他の児童の理解にも役立つ内容で、認識・見方が変わった。難しい学問領域だが、small step を踏んで説明がなされて、ユーモアも交えながら、柔らかい雰囲気の中で学べた。発表しやすい雰囲気の中で、指名されて答えている内に、主体的に取り組むことができるようになっていった。</p> <p>以上のことから、本授業を平成30年度「ベストクラス」にふさわしいと判断し、推薦する。</p>			